

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第425号 平成20年5月



『梅岩寺の枝垂桜』 森本 晋

目 次

	頁		頁
1) 西多摩医師会各部分掌表・医道審議会表		10) 病院だより 公立阿伎留医療センター	15
広報部	2	11) 連載企画	
2) 会長に就任して	真鍋 勉 3	Paraguayの思い出(6)	西成田 進 16
3) 副会長に就任して		まわりを気にしない人々	鹿児島島武志 16
横田卓史・中野和広・玉木一弘	4	12) 同好会短信	
4) 新担当部長・委員長就任にあたって		ゴルフ部だより	田村啓彦 18
各担当理事	5	13) 理事会報告	広報部 19
5) 西多摩医師会定時総会開催	広報部 8	14) 会員通知・医師会の動き	事務局 22
6) 専門医に学ぶ	布施孝久 9	15) あとがき	鹿児島島武志 24
7) 感染症だより	西多摩保健所 11	16) 表紙のことば	森本 晋 25
8) 特定健診について	横田卓史 13	17) お知らせ	事務局 25
9) 伝言板	広報部 14		

会長に就任して



真鍋 勉

平成 19 年度第 2 回総会におきまして、今期の会長に選任いただき誠に有難うございました。前期 4 年間のご支援ご協力に衷心より御礼申し上げますと共にこれからの 2 年間につきましてもさらなるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

今期退任されます西成田進先生、新井敏彦先生、小林浩先生に代わり新たに松山健先生、川間公雄先生、宮下吉弘先生が理事に選任されました。退任される先生方にはこれまでの会務に対するご尽力に深謝申し上げ、新任の先生方には大いなるご活躍を期待したいと思います。

さて、今期の 2 年間は、西多摩医師会にとりまして極めて重大事である 100 周年記念行事に対する助走期間と位置づけました。今後 2025 年までの 5 年間にまずは「会館建設問題」の処理、また「記念誌編集」については、80 周年記念誌編集の反省から早めに検討を始める必要があると思います。さらに重要な問題は「新公益法人制度」です。今年 12 月 1 日から新制度が施行され、移行期間 5 年、平成 25 年 11 月 30 日までに西多摩医師会は一般社団法人か公益社団法人かを選択しなければなりません。紙面の関係で詳細な説明は改めて行う予定ですが、事は医師会存続に関わる案件ですので、年内に委員会を作り、都医師会や他地区医師会の動向を見ながら検討を始めたいと思います。

ところで、申すまでもなく医療を取り巻く環境は一層厳しいものになっております。2006 年、当時の小泉内閣が強行採決して成立した医療制度改革法案はいよいよ今年から動き出しました。まずは、特定健診・特定指

導ですが、特定健診に関しましては、再三進捗状況をお知らせしましたように、市町村の財政事情を勘案し今年度は本体部分の健診のみ 8 市町村統一で本会と契約しました。引き続き来年度以降も地域住民が西多摩圏内でもどこでも同じ内容の健診が受けられるよう交渉を継続して参ります。また、後期高齢者医療制度は「乳母捨て」制度と酷評ですが、医療面からも色々問題を内包しています。例えば、外来診療における後期高齢者診察料（600 点）ですが、算定要件によれば、1 つの医療機関でこの診察料を算定すれば他の医療機関では算定出来ないだけでなく、それ以外の医学管理料までも算定できない事になっています。これは医療現場を無視した厚労省の医療費抑制策以外の何ものでもありません。今後、日医や都医の動向を見ながら、届出は慎重に行う必要があると思います。一方、西多摩医療圏に目を転じますと、病院の医師不足の問題は 3 公立病院においても例外ではなく極めて深刻で、特に周産期医療は危機的状況に直面しています。この原因も国の財政優先の医療対策が引き起こした結果であることは言うまでもありません。今回の医療費改定では病院の勤務医対策を柱にしていますが、厚労省の役人ですら、効果は疑問視している有様です。安心と安全な医療を国民に提供するためには、まず医療財源の確保こそ重要課題であることは明らかな訳ですが、その実現のためにも地区医師会として第 2 期唐沢体制を支持し、日医、都医を後方支援して行かねばならないと思います。地域の医師不足対策としては、病院側の医師集めに頼るだけではなく、病診連携の促進や病院受診のあり方など住民への啓蒙活動も医師会の役割ではないかと思います。

かくの如く、様々な難問が山積しておりますが、地域医療を守り、国民皆保険制度を堅持するため、新執行部一丸となって会務を遂行していく所存であります。会員皆様のなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

副会長に就任して



横田卓史

この度、二期目の副会長の御指名を頂くことになりました。前期には主に会館建設の問題や直近に迫っている特定健診を担当致しました。会館問題に関しては会員の皆様の意見の相違を感じることもありました。老朽化した現会館をそのまま放置するには忍び難く、今後建設準備委員会の決定に基づき適切な候補地を選定して参りたいと思います。幸い現在良好と思われる候補地が二件委員会に挙がっておりますので、委員会に諮り鋭意検討してゆく予定です。特定健診に関しては、最後まで老健法の基本健康診査と比較し健診内容の低下を防ぐべく、八市町村統一方式を行政に依頼して参りましたが、各自治体の財政事情もあり合意に至らず、残念ながら地区により若干内容の相違が生じる契約になりました。今後の課題にさせて頂きたいと思いますが、西多摩医療圏における医療、保健衛生事業は可及的に統一方式で実施すべきという医師会の確固たる方針は、行政側に認識して頂けたと思います。4月の保険改定や後期高齢者医療制度など何かと問題点の多い制度が始まり難問山積ですが、真鍋会長を補佐して理事の先生方と協力して会務に取り組むつもりですので宜しくお願い申し上げます。



中野和広

理事3期目です。今回、会長の指名により副会長を拝命いたしました。「まさか副会長とは」と驚きましたが、理事であるからには理事会の中での役割のいずれかを担わなければなら

いと覚悟しました。あらためて定款を読みました。副会長の職務は会長の補佐とあります。「ウーン、責任が重いなァ」という気持ちは正直なところあるのですが、微力を尽くす所存です。これから2年間よろしく願いいたします。青梅の地区長も引き続き務めることになりましたので、青梅地区の皆さまにはご協力をお願いいたします。青梅では理事などの役員は交代でやっていこうという考え方はあるのですが、具体的にどうするのかということとは決まっておらず、今後の課題と考えています。青梅地区だけに限ることはありませんが、「役員は誰かがやってくれるので、自分には関係ない」と思うのではなく、「一度はやろう」と考えていただきたいと思います。現在の役員も日々の診療をしながら医師会の仕事をしているわけで、特殊なことをやっているわけではありません。会員が少しずつ積極的になるだけで医師会は活気づくでしょう。お互いの顔も見えやすくなり、それは地域医療の充実のためにも大いに意味のあることだと思います。



玉木一弘

私が、西多摩医師会に入会させて頂いてから20年が過ぎました。入会当時は、ちょうど医療費亡国論や医師過剰論が頭をもたげ、暗雲が立ちこめ始めた頃でした。

その後の20年の逆風は敢えて挙げるまでもありませんが、医療者の就労環境が劣化し、刑事訴追や医事紛争が煽られ、結果として医師の偏在や不足、救急・産科・小児医療等に地域や診療科間の格差が生まれ、私たちが必死で訴えてきた通り、地域医療の疲弊は現実のものとなりました。

まだ光があるとすれば、国民皆保険によるフリーアクセスや不偏の医療の重要性、国民合意に基づく医療財源確保の必要性が、ようやく認知され始めてきたということでしょうか。また、この国の社会システムにグローバル型競争社会を持ち込み、自らを利してきた勢力が、同時に医療費の支払い側として、低い雇用者負担率を維持しようとしてきた事実を、国民が知りつつあるということでしょうか。

これからの課題は、まず、生活環境・食・医療の確保に基づく、QOLを指標とした「個のより良き生存」の達成こそが、最優先の国民合意であることを再確認し、消費税を含む新たな財源の確保、医療費における財政中立論から脱却を図ることにあるでしょう。

また医療安全調査委員会（仮称）の設立によって、理不尽な刑事訴追や医事紛争から医療者を開放し、本来の医療の提供と技術やシ

ステムの改善に専念できる環境を確立することにあると思います。委員会については紆余曲折の議論がありましたが、厚労省の第四次試案では、医療関連死などの場合、医療機関の判断で、医療者が中心になって運営する委員会へ届け出、パッシングではなく再発防止の観点から調査が行われ、故意や重大な過失、悪質事例のみ警察へ通知する仕組みとなり、民事については裁判外紛争処理の活用を推進するとしています。ここで重要なことは、設立後に、国民の理解と信頼を得られる制度として定着するよう、医療界をあげて委員会の透明性のある運営と機能を支え、医療安全の確立という責務を、司法から引き継ぐということにあります。

地域医療の再生を牽引できる医師会で在れるよう、会員の皆様とともに努力させて頂きたいと思います。ご指導よろしく願いいたします。

新担当部長・委員長就任にあたって



学術部

小机敏昭

学術部を統括いたします。

野本副部長、学術部メンバーとよく相談し、よく吟味し、やっていくつもりです。



公衆衛生担当

川間公雄

医師会が具体的にどのような活動を行っているのか、理解しないまま理事になりました。改めて、西多摩医師会定款を眺めてみました。医師会の目的は、第3条にて「本会は、医道の高揚、医学医術の発達普及と公衆衛生の

向上を図り、もって社会の福祉増進に寄与することを目的とする」とある。この目的を達成する為に第4条に4つの事業

- (1) 医学の振興及び医師・医療関係者の生涯教育に関する事業
- (2) 包括的地域保健医療に関する事業
- (3) 医療保障制度に関する事業
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業

を行うとある。

具体的な事業に関しては生涯教育以外はよく知らず、今後の勉強と考えております。

医師会の役割、医師会に望まれていることが、社会の変革とともに変わってきている昨今、どのように医師会が変りながら存在していくべきなのかを考えながら一理事として参加したいと思います。

西多摩地区の医療を担うべき医師会とはどうあるべきかを私なりに考えてみるつもりです。



学校医担当

鈴木道彦

前期に引き続き学校医担当となりました鈴木です。学校医の役割は、「日ごろより学校の実態を踏まえ、学校保健活動の全般にわたり、専門的立場から指導、助言を行う。」とされています。これら諸活動の中心的役割を担うものとして学校保健委員会が挙げられます。西多摩地区で設置状況の低かった本会も、諸先生方のご協力を頂き、ほぼ全校に設置されました。学校保健委員会は、学校職員、学校医、保護者、児童生徒等で構成されます。したがって各校の様々な課題を弾力的に解決でき、多忙な先生方が効率よく学校医の役割を果たせる事になりました。

また学校保健担当者の教育、研修等を目的とした学校連絡協議会は、三公立病院の小児科の先生方を講師にお招きし、毎回盛況な講演会となっております。

さらに、ツ反応及び BCG 再接種の中止により始まった結核対策委員会も、五年経過し円滑に進められております。結核健診に携わる学校医の先生方に感謝致します。

これからも微力ではありますが、学校保健業務を推進して参ります。会員の皆様の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。



産業医担当

渡辺 肇

理事就任し3年目に入りますが、現在、分娩を取り扱っておりますので、毎回の理事會に欠席する事も多く、他の理事の方々に御迷惑をかけております。

今回も産業医担当に命ぜられました。産婦人科の医師の私には会社や工場での健康管理や作業環境の管理、改善などはやや畑違いの領域になりますが、医師会として行っている産業医活動等にも関与していきたいと思って

おります。また、当院通院中の妊婦様方にも会社勤めの方も多数おられます。妊産婦の職場の作業環境の改善や健康管理に事業主が行わなければならない事も、さほど行われておりません。また、職場環境による精神疾患の増加も認められますので、今後も産業医の勉強を行いたいと思っておりますので御指導の程お願い致します。



病院部

松山 健

この度公立阿伎留医療センター副院長の西成田進先生の後任として病院委員会委員長に就任させて頂きました公立福生病院副院長の松山健と申します。私自身当西多摩地区での勤務が20年を越え少々長くなつては来ましたが、何しろ54歳という若輩の身、さらに急性期病院それも小児科というきわめて狭い分野からしか周囲を視てきておりませんでした。従いまして介護の分野や高齢者医療の分野に関しては情けないかな知らないことばかりです。西多摩地区は様々な特徴を持つ医療機関が混在しており、何時までも知らないままでは通用しないことは重々承知しておりますので、今後当医師会の先生方・病院委員会の先生方の御指導・御鞭撻を何卒よろしく御願ひ致します。



広報部

鹿兒島 武志

このたび広報部を担当させて頂きました鹿兒島と申します。広報活動を通じて医師会会員相互の親睦、交流さらに勉学場を提供して参りたいと願っております。具体的には、医師会主催の各種の催しや委員会情報、同好会通信、地区だよりなど、また先生方の日々の臨床に役立つ保健所だより、講演会の演者の講演要旨あるいは、さらに一步深

く内容を吟味し、詳細にわたる医学情報を専門的な立場から解説して戴く専門医のコーナーを引き続き設けてゆきたいと思っております。2年弱にわたりました連載企画や広報部便りを今後どのように展開してゆくのかも広報部として検討中でございます。

ここ数年以内の大きな行事予定としては創立100周年記念を迎えますが、それに伴う西多摩医師会のあゆみ（仮称）の記念出版、さらに医師会の新会館建設などが挙げられます。広報部と致しましては記念出版に関する計画と構想、また会館建設の準備状況の経過など、いづれも医師会創立以来の大きなイベントですので会報を通じて順次提供致して参りたいと思います。この場をお借りして会員の先生方の誌上へのご投稿のご理解ご協力をお願い申し上げます。



保険部

蓼沼 翼

理事に二期目で、前回に引き続き保険部担当理事となりました蓼沼（たでぬま）です。

諸先生方の皆様や事務の方々のご指導・ご協力でどうにか二年間を乗り切ることができました。

これからの二年もよろしくお願い申し上げます。

医学部を卒業してから約40年近く経ちました。この間、医療行政などにはほとんど関心を持たず、何となく勤務医を続けてまいりましたが、さすがにここ数年の変化を見ますと、この国の医療はどこに行ってしまうのだろうか心配になってきました。かといって自ら何かの行動を起こすわけでもないのですが……。

この四月より特定健診や後期高齢者医療制度が始まりましたが、見切り発車もいいところで、案の定マスコミなどより批判が始まっています。前者に対しましては、総論賛成、各論反対の声が聞こえ、後者に対しましては早くも廃止の動きがあるようです。

今はただ、爾々と業務をこなしていくのみです。



経理部

野本正嗣

この度、経理部を担当することになりました野本でございます。前期は学術部を、前々期は広報部を担当させていただきました。今回の経理の仕事は今までと違い、あまり表には出ない裏方的内容でございますが、健全な医師会運営のためには重要な部署と思っております。3月27日の定時総会におきましてご承認いただきました平成20年度に収支予算書にもとづき、各部事業の遂行に支障のないよう適正な会計処理を行い、本会の円滑な運営のために努めていきたいと思っております。

いうまでもなく本会収入の大部分は会員から納入していただく会費でありますので、当然その有効かつ効率的な運用が求められるわけであります。この点につきましては、執行部、監事、事務長、公認会計士、顧問弁護士などと連絡を密にとり、予算執行状況を随時把握しながら、細部にわたりチェックを行いつつ、医師会事業の活性化に尽力していきたいと思っております。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



総務部

田坂哲哉

二期続けて総務担当理事となりました田坂です。総務は事業内容が多岐にわたり関連することが多く、特に特定健診など自治体と関連することが多く含まれ戸惑うことも多くあります。また、今期は会館の移転建設の課題や100周年の準備なども出てくると思います。医療を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、医師会員や自治体からの要望も変化が出

てくると思われますので、前期までの経験を活かし、医師会の運営や活性化に貢献できるように努めたいと思います。御協力よろしくお願いいたします。



総務部福祉担当

宮下 吉弘

このたび、小林浩先生の後任として、総務部福祉担当をおおせつかりました。

平成 10 年 4 月に、青梅市で開業以来、10 年の歳月が経ちました。青梅市医師会の場合、開業 10 年前後に西多摩医師会の理事に就任

される方が多いように思われます。

医療制度改革による診療環境の変化、特定健診実施上の問題、会館移転、西多摩医師会創立 100 周年記念の準備など多くの課題が存在しており、大変なときに理事になってしまったなというのが正直な感想です。

医師会は、20 代半ばから 80 代までの幅広い年齢層の方々に構成されており、ジェネレーションギャップから、会員相互の意思の疎通や意見の交換が十分に行われていない場合もあるのではないのでしょうか。

納涼の夕べ、新年賀詞交歓会、忘年クリスマス会などを通じて、会員の相互理解を深めるきっかけの場を提供できるよう努めたいと思います。

西多摩医師会定時総会開催

広報部

さる年 3 月 27 日 (木) 昭島の昭和の森、フォレストインにて平成 19 年度の西多摩医師会第 2 回定時総会が開催された。真鍋会長の開会宣言の後、宮川栄次会員が議長に指名され、開会成立に必要な人数に達していることが報告された。

(会員総数 493 名、成立に必要な過半数 247 名; 当日出席者 35 名、委任状数 239 名 計 274 名)

議案

第一号議案：平成 20 年度各部事業計画案につき承認を求める件

第二号議案：平成 19 年度収支補正予算案につき承認を求める件

第三号議案：平成 20 年度収支予算案につき承認を求める件

第四号議案：本会役員・医道審議会委員の選任

第五号議案：本会互助会役員を選任

開会挨拶のあと、第一、二、三号議案は一括して上程され、各担当理事より事業説明が明らかにされ、二、三号議案については経理担当理事より詳細な説明がなされた。質問は特になく三つの議案は賛成多数で承認された。

四、五議案についても同様に賛成多数で可決された。

選出役員は以下の通りである。総会に先立ち公立福生病院 外科医長の仲丸真先生による「腹部大動脈瘤と閉塞性動脈硬化症」の演題で講演がなされた。

禁煙と上記疾患との因果関係も含めた興味深い内容であった。(次号に掲載予定)

総会議事がすべて終了後に隣室で懇親会が開催され滞りなくお開きとなった。

文責：鹿児島 武志

専門医に学ぶ 第41回

問題

【症例】 80歳女性

【既往歴】 特になし

【主訴】 繰り返す右手の脱力発作、言語障害

【現病歴】

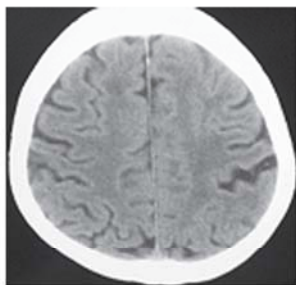
平成18年6月14日より右手の脱力発作が出現。15日にも同様の発作と一過性の言語障害があり、受診した。

【初診時所見】

意識は清明。失見当識障害なし。うっ血乳頭なし。徒手筋力テスト (MMT) で、右上肢 (4+/V) 右下肢 (5/V)。知覚障害はなし。深部腱反射亢進 (-)、バビンスキー反射 (-)。
血圧 172/90mmHg、脈拍 78/分、体温 36°C、血液生化学的検査は正常。胸部 X-P、心電図も正常。

【神経放射線学的検査】

頭部CTでは明らかな異常はなかったが、入院して経過観察を行なうこととなった。



問題1 この時点で考えられる疾患と次に行なう検査は？

問題2 まず行なうべき治療は？

【入院後の経過】

6月16日に再度、右不全片麻痺 4/V が出現した。17日には右上肢麻痺 3/V まで進行し、返答に時間がかかるようになり、18日運動性失語が出現した。

問題3 この時点での診断、治療は？

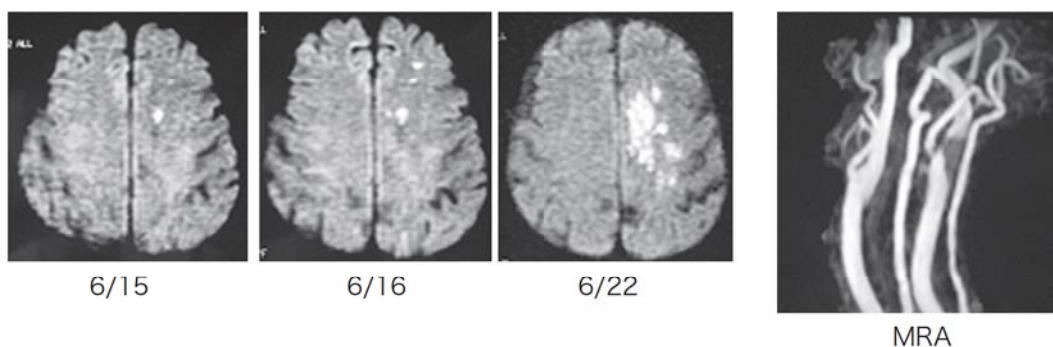
解答と解説

公立福生病院 脳外科 医長 布施 孝久

問題1に対する解答

繰り返す脳虚血発作または小梗塞が考えられた。原因としては脳血栓症、心原性塞栓症、頸動脈狭窄のいずれも考えられるが、不整脈等の心疾患がなく、症状が片側性かつ進行性であることから頸動脈狭窄が最も疑われた。検査としては、CT、MRI、MRA、頸部血管エコー、血管撮影が選択される。まず一般外来で頸部エコーを施行するのは有用と思われる。

本例の初回CTでは明らかな異常がないが、一過性脳虚血発作を繰り返しているか、梗塞を発症したばかりで、CTではいまだ描出されていないと考えられた。最近ではCTの性能が向上し、発症数時間以内でも脳梗塞による浮腫の所見が確認できる場合があるが、一般には4-6時間以降でない限り梗塞は描出されない。そこで虚血巣が発症1時間以内でも描出できるMRI拡散強調画像を施行した。15日のMRIにて虚血巣が描出された。またその後、経時的に病巣が拡大しているのがわかる。また頸動脈MRAで左内頸動脈高度狭窄が認められた。

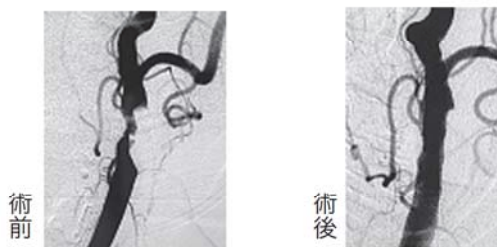
**問題2に対する解答**

急性期脳梗塞の薬物療法には、一般に抗血栓療法 {抗凝固剤 (アルガトロバン、ヘパリン) または抗血小板薬 (アスピリン、プロピドグレル、シロスタゾール、オザクレルナトリウム)}、抗脳浮腫療法 (グリセリン)、脳保護療法 (エダラボン) がよく用いられる。急性期梗塞で重篤な場合は発症3時間以内であればTPAも使用される。本症例は虚血発作を繰り返すため、脱水予防に低分子デキストランを開始し、抗血小板療法 (アスピリン、シロスタゾール)、抗脳浮腫療法 (グリセリン) を行なったが、症状の進行を止めることはできなかった。

問題3に対する解答

頸動脈狭窄による進行性脳卒中

6月23日血管撮影にて95%狭窄を認め、引き続き頸動脈ステント留置術を施行した。手術ではWallstent RP8×33mmを留置した。



頸部内頸動脈狭窄病変に起因する進行性脳卒中に対して従来は抗凝固療法などの保存的治療がなされてきたが、最近では急性期に頸動脈内膜剥離術や血管内治療を行う施設が増加している。しかし、治療後に過還流による脳出血、脳浮腫、二次性梗塞などの術後合併症を誘発する可能性もあり、議論のあるところである。進行性脳卒中の手術適応としては症状が重篤な症例では頸動脈内膜剥離術の成績は不良とする意見が多い。一方、血管内治療の適応については頸動脈ステント留置術による成功例が散見されるようになり、我々も有効例を経験している。平成20年4月よりプレサイスステントおよびアンギオガードによる頸動脈ステント留置術が正式に保険適応となったが、今後は頸動脈狭窄に対する治療法の第一選択になっていくと思われる。

感染症だより

<全数報告>

第12週(3/17-23)から第15週(4/7-20)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核7件(肺結核5件、その他2件)

(五類感染症) 麻疹5件(検査診断例3件、臨床診断例2件 /10歳未満1件、10歳代3件、30歳代1件 /麻疹含有ワクチン接種歴:1回2件、無し3件)

<管内の定点からの報告>

	12週	13週	14週	15週
	3.17~23	3.24~30	3.31~4.6	4.7~13
RSウイルス感染症	0	0	1	1
インフルエンザ	17	7	2	2
咽頭結膜熱	0	0	1	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	2	0	8
感染性胃腸炎	57	35	31	20
水痘	2	8	3	2
手足口病	0	0	0	0
伝染性紅斑	0	0	0	0
突発性発しん	3	1	1	1
百日咳	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	1	1	0	0
不明発疹症	0	0	0	0
MCLS	0	1	1	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	0	1
合計	92	55	40	35

※基幹定点報告対象疾病<細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)>

① インフルエンザの発生報告はさらに減少しています。

インフルエンザの発生報告数は、都内・管内ともにさらに減少しています。定点あたり報告数は、西多摩圏内で0.22、都内では0.39（第15週）となっています。全国的にも第6週から減少傾向が続いており、注意・警報レベルを超えている保健所地域は2箇所（沖縄県、佐賀県）のみとなっています。

② 感染性胃腸炎の発生は減少しています。

第4週から第11週までは増加傾向で、管内定点あたり報告数が16.2（第11週）だった感染性胃腸炎の報告ですが、第12週より減少傾向となり、管内定点あたり報告数が4.0（第15週）となりました。都内、全国でも同様の動向を呈していますが、過去5年間と比較すると定点あたりの発生数はいまだ多く、今後の動向については、引き続き注意が必要です。

③ A群溶連菌感染症はやや減少しましたが、過去5年間と比較し発生の多い状況が続いています。

A群溶連菌感染症は第9週をピークに減少傾向ではありますが、過去5年間と比較すると、発生数はいまだ多い状況が続いており、定点あたり報告数は西多摩圏内で1.6、都内で1.73（第15週）となっています。流行発生警報開始基準値（定点あたり発生数4.0）には達していませんが、今後しばらく、発生の動向にご注意いただくとともに、咽頭痛・発熱などを訴える幼児・学童の診察時にはご配慮をお願いします。

◎ 麻しんの発生状況および麻しん・風しんの届け出、予防接種について

都内の麻しんの発生報告は第9週をピークに減少傾向となり、第15週には報告数が41例（管内5例）となりましたが、国立感染症研究所は今シーズンも麻しんの発生数が多いと予測しており、また流行のピークが例年4月から6月になることが多いことから、今後も引き続き発生の動向にご注意ください。また、先生方もすでにご存知のとおり、麻しん・風しんの届け出、予防接種については、2008年から以下のように変更されておりますので、よろしくお願いたします。

① 2008年1月1日から麻しんと風しんは、それぞれ全数把握疾患に変更されました。

麻しんと風しんを診断した場合は、全て届け出てください。麻疹については、可能な限り24時間以内に、風しんについては7日以内に届け出てください。

② 2008年4月1日から5年間の期限付きで、麻しんと風しんの定期予防接種対象が、現在の第1期（1歳児）、第2期（小学校入学前年度の1年間にあたる児）に加え、第3期（中学1年生相当世代）、第4期（高校3年生相当世代）に拡大されます。接種の実施にあたっては、貴会所属の先生方にもお世話になります。

どうぞよろしくお願いたします。

特定健診

西多摩医師会と八市町村との契約

副会長（特定健診担当） 横田卓史

特定健診の実施を控えて西多摩医師会では行政側と協議を続けてまいりましたが、4月7日の総務会、8日の理事会において最終的な契約内容を以下の如く決定し承認しました。この決定に基づき医師会と八市町村は契約を行なうこととなります。

契約内容の要旨

- 1：受診者の負担金はなしとする。（無料健診）
- 2：特定健診のみ（保健指導は受託しない）の受託とし、かつ健診本体部分のみ西多摩医師会と八市町村との集合契約とする。
- 3：健診の内容は、本体部分は厚労省統一方式とするが、選択検査は心電図、末梢血液一般、追加検査は血液生化学として血清クレアチニン、尿酸、また医師の判断による選択項目として眼底検査と生活機能評価による選択項目として血清アルブミンの項目を各自自治体と地区医師会と協議の上契約を行ない実施する。原則として65歳以上の生活機能評価も同時に実施する。
- 4：委託料は保険点数を根拠とし1点10円とするが、追加の生化学検査は西多摩単価1点12.5円を適用する。消費税は追加項目のみ外税とする。生活機能評価は従来の西多摩統一単価である1,500円とする。
- 5：実施期間は各地区で決定してよいが、保健指導の実施機関を考慮して出来れば6月から10月ぐらいが望ましい。
- 6：データの電子化に関しては各地区医師会において行政側と協議をする。原則として健診機関は紙ベースで提出する。

7：他の健診との関連

- 40～64歳：特定健診
 65～74歳：特定健診＋生活機能評価
 又は：生活機能評価のみ
 75歳以上：後期高齢者健診＋生活機能評価
 又は：生活機能評価のみ
 40歳以下は各地区独自で検討する。

最終的に健診内容を全て八市町村統一とすることは今回合意出来ませんでした。今後の課題として引き続き行政側と交渉を行なっていく予定です。

健診内容表

（本体部分のみ）

区分	内容	一人あたりの委託単価 (消費税含む)	支払条件		
特定健診	基本的な健診の項目	既往歴の調査（服薬歴及び喫煙習慣の状況に係る調査を含む。）	7,570円	健診実施後に一括	
		自覚症状及び他覚症状の検査			
		身体測定			身長
					体重
					腹囲
					BMI
		血圧			収縮期血圧
					拡張期血圧
		血中脂質検査			中性脂肪
					HDL-Cコレステロール
	LDL-Cコレステロール				
	肝機能検査	GOT			
		GPT			
		γ-GTP			
血糖検査	空腹時血糖				
	ヘモグロビンA1c				
尿検査	糖				
	蛋白				
詳細な健診の項目 (医師の判断による追加項目)	貧血検査	赤血球数	230円		
		血色素量			
		ヘマトクリット値			
	心電図検査	1,500円			
眼底検査	560円				

伝言板

① 平成20年度西多摩医師会 第1回定時総会開催について

下記の通り定時総会を開催いたします。諸事ご多忙中とは存じますが、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日 時：平成 20 年 5 月 29 日（木）午後 7 時 50 分（時間厳守）

会 場：昭島市昭和の森 フォレストイン昭和館1F テアトロソシエにて
TEL 042(542)1234

なお、総会の前に恒例の学術講演会を予定しております。ふるって御参加下さい。

講演時間：午後7時30分～50分まで

演 題：「大腸癌免疫化学療法の現状」

講 師：公立阿伎留医療センター外科長 柴田 昌彦 先生

総会終了後、懇親会を行います。会場は1F『桜林』となりますのでご注意ください。

② 西多摩医師会 学術講演会

日 時：平成 20 年 5 月 21 日（水）PM7:30～9:00 まで

場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階 講堂

第一部 演題：「(仮題) ARB と心拍数について」

演者：波多野医院 副院長 波多野 嗣久先生

第二部 演題：「慢性腎臓病、糖尿病の治療における最新の話」

講師：防衛医科大学校 腎臓内科 准教授 熊谷 裕生 先生

③ 第10回 西多摩消化器疾患カンファレンス

症例募集のお知らせ

日 時：平成 20 年 6 月 11 日（水）PM 7:30～

場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階 講堂

ミニレクチャー：

「癌の放射線治療についてー臨床腫瘍学のススメー」

徳洲会病院グループ放射線診療部門長

東京西徳洲会病院 放射線医学センター長 大川 智彦 先生

症例募集：今回は主題を設けておりません。

消化器疾患で印象に残っている症例、興味ある症例につきまして募集いたします。

締め切り：平成 20 年 5 月 12 日（月）

連絡先・問い合わせ先：

エーザイ株式会社 多摩コミュニケーションオフィス（担当者）竹田篤志

FAX：042-367-9300 TEL：042-367-9310

e-Mail：a-takeda@hhc.eisai.co.jp

病院だより

1. 公立阿伎留医療センター医局講演会要旨

日時：平成20年3月24日（月）午後7時30分

場所：公立阿伎留医療センター 地下1階講堂

演題：日本のがん－一般医（家庭医）に知ってもらいたいこと

講師：公立阿伎留医療センター 参事 江上 格

わが国のがん患者数は増加の一途をたどり、男性の2人に1人、女性の3人に1人が一生のどこかでがんに罹るとされる。また、がんと診断され生存されている人がおよそ400万人存在し、2015年にはその数が533万人と推計され、まさに“がんの時代”が訪れている。従来にもまして一般医、家庭医が担うべき役割の重要性がましている。

近年、行政府からやつぎばやに出された施策、制度で、一般医が重点的に取り組むべき事項として①がん予防、早期発見 ②がん医療の均てん化 ③緩和ケアの実施 ④がん医療に関する相談支援・情報提供がある。

今回の講演内容は①行政が進めるがん関連施策、制度 ②一般医が担うべき役割 ③わが国のがんの実態・統計 ④がん治療後のフォローアップ診療である。

日本のがん統計2007では①死亡者数は現在の30万がピークには45万と推計される ②年齢調整死亡率では1960年後半から減少傾向が続いている ③死亡数増加の主因は老人人口増加とされる ④部位別罹患率年次推移での近年の増加は男性で前立腺、女性では乳房、肺、卵巣で、悪性リンパ腫は男女で増加している。その他の部位は横ばいか減少である。⑤治療成績では全体的に向上しているが肺・膵・胆は依然として低迷している。

がん治療後のフォローアップ診療での、目的として①治療（手術、化療など）に関連する後遺症、副作用の有無と管理 ②がん再発・転移の早期発見 ③フォローアップ後期では第2のがんの発生の発見と併存疾患の監視・管理。

がんは極めて複雑性にとんでおり日常診療での困難性はあるが、要は診療現場では患者の視点で対応することに尽きると考える。地域の医師会、医療機関との連携を強め、がん患者の不安や期待に応えて行きたいと考えている。

2. 第6回市民フォーラム開催

平成20年3月28日、午後6時より羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」にて西多摩医師会・西多摩地区病院会の共催で第6回市民フォーラムが開催された。今回は「救急医療」をテーマに、「救急車が来る前にあなたにできること」と題して青梅消防署救急係主任 田倉健一氏、「おぼえておいて救急処置のやり方」と題して青梅市立総合病院救命センター長 川上正人氏、「心肺蘇生法」と題して前公立阿伎留医療センター救急科長（現日大医学部救命センター）櫻井敦氏がそれぞれの豊富な経験をもとにお話をされた。当日の来場者数は158名。フォーラム後のアンケート調査でも3講師の講演内容の評判はよく90%以上の方から「大変よかった・よかった」の評価をいただいた。少し残念だったのは、来場者に医療関係者が多く、一般市民の来場が3分の1に留まったことである。今後はこの市民フォーラムの案内をより市民に触れやすい形でおこなう必要がある。このフォーラムの開催、運営には西多摩地区病院会の事務局の方々に、その運営面で大きな力を発揮していただいております、今回もその準備・段取り・当日の運営において完璧な力を発揮していただいた。当日、来場者から今後とりあげるべきテーマをアンケートの形で数多くの希望をいただいた。これらを次回開催の参考にしたいと考えている。

文責：西成田 進（前病院担当理事、公立阿伎留医療センター副院長）

連載企画



Paraguayの思い出 (6)

あきる野市 公立阿伎留医療センター 西成田 進

シリーズの最後に、私はこの国へいかにして、何をしに行ったのかを少しだけお話しします。当時（1989年）、海外協力事業団の数多くのプロジェクトの一つに南米における「シャーガス病の病態、治療の研究」があった。この病気は南アメリカ型眠り病とでもいべきもので *Tripanosoma Cruzi* という原虫により引き起こされる。寄生虫の専門家でもない私がこのプロジェクトに参加することになったのは以下のような事情による。当時、臨床の傍ら「免疫学」を研究の一領域に選んでいた私に、たまたまこのプロジェクトに関わる複数の免疫学の大家が「命令の挟み撃ち」を仕掛けたことによる。拒否権のないままに、シャーガス病の何たるかも知らないままに地球の真裏まで行って、かの国の研究者に伝達したことは、「細胞融合法によるモノクロー

ナル抗体の作成法」、「マイクロタイタープレートを用いた酵素抗体法」などであった。後にこの国の研究者たちがこれらの免疫学的手技でシャーガス病の研究をいかに発展させたのかは今もって不明である。写真左は滞在した「パラグアイ国立衛生研究所」、右は研究・伝達の成果がきちんと達成されているかどうか、日本から視察に来られた数人の大家を前にしての研究発表会の時のもの。カメラを向ければ、研究発表どころではなく「カメラ目線」はいつでも同じ若いオネーサンたち。発表も伝達も片言の英語であった。横向き、髪の毛が少し少ない方は、私を挟み撃ちにした大家の一人 仙道山形大学病理学教授（今は学長）。個人的に楽しかった思い出……、文章にすることはないでしょう（了）。



まわりを気にしない人々

青梅市 鹿兒島 武志

先日、とある駅に隣接している駅ビルの下りエスカレーターに乗っていた時のことである。たしか6階からと記憶しているが、私のすぐ前には若い女性が乗っていてその一段下には友人とおぼしき若い学生風の男性が

乗っていた。このカップルは何を思ったのか男がさりげなく振り向き抱き合っ、キスをし始めた。ちょうど背丈が一段分違うので下段の男が向き合うと顔の位置が合っている。ごく自然にふるまっているつもりだろうが、

問題なのはエスカレーターは下降中ということだ。男の眼は昇りエスカレーターに乗っている人目や私の方ではなく階段の位置を気にしているようで5階に着くとうまく離れてゆく。彼らがすごい？のは下の階に着くとずっと離れて5階から4階さらに3階へと延々と同様に熱烈抱擁を続けている点にある。昨今、アルコールが入ってなくとも街角での抱擁やキスは別に珍しいことではないと思うし、ご勝手にどうぞといいつつも目のやり場に困るところだが、いささか関心を持ったのはこの所作が初めから男の作戦だったのか、また単に二人が周囲を憚らずに行動を起こすことに周囲の目線に対しては何の懸念も抱かなかったのかという点であった。結局二人は映画のワンシーンでも思い出しているのかなどどちらでもよくなって自分は途中階から降りてしまった。嘘をついた男性の心理作戦に女性が相乗りしたのだとすれば、二人はホットな関係でめでたくて結構なことだが、他人の目を気にせず堂々と事を運んだことは、なかなか誰でもマネのできるというものではないだろう。こういった下世話ばなしの暴露は会報誌には不向きなのは承知しているが、「平然と車内で化粧をする脳」という題名で、ひところ話題となった本のことを思い出したので続けてみたい。

ひょっとしたら彼らは周りの空気が読めていないのかも知れないが、エスカレーターの一件をはた迷惑などと野暮なことは言わない。しかし状況が異なり日常的な迷惑行為となると俄然問題点が多い。例えば人前であたりかまわずに携帯で長々と話を続ける、仲間と車内で大声でしゃべることを止めない、ドア付近でしゃがむなど、周囲の人間には迷惑な行為をしていることに本人が気づかないといった光景は日常よく見かけられる。周囲の人に不愉快な感情を起こさせるのに気がついていないのは自我や社会的知性といった高度な精神活動を司る前頭連合野が未熟のまま、この部分を発達させる成育段階で適切な刺激を受け損なったためとこの文庫本では解説していた。脳の「未熟性」とは未発達で救い難いという意味あいではなくヒト科が進化する上で、これは重要な特性であるという。一例をあげると他の霊長類に比べてヒトの赤

ん坊は未熟度が高く、身体能力や成長の速度も遅く完成までには時間がかかることは逆に環境の受容に適合して脳のシナプスやネットワークを増やしてゆくのにかえって都合がよいらしい。その結果、自我や理性、知性の中核である前頭連合野はヒトでははずば抜けて大きく発達している。また興味深いのはヒトの分類ではネグロイドやコーカソイドに比べて我々モンゴロイドは「未熟度」が高いことが特徴なのだそう。結論からはおおよそ日本人は脳の発育に重要な「未熟度」が高いので環境にうまく適応してゆけば前頭連合野が発達するには本来有利なのだが、適切なしつけや教育を受ける機会を逸すると脳の前頭連合野の発達障害がおこる。さらに脳を发育させるのに適していた既往の習慣を改め、欧米風の食生活や住宅環境を受容した結果、日本人の脳の発達に悪影響が出ていると述べている。その結果、未熟度の高い脳が本当に未熟状態のまま成育すると、よいはずの特性が裏目に出て自己中心、わがままで周囲に迷惑をかける人が増えているということらしい。まるで書物の宣伝のようになってしまったが、周囲の目を気にしない行為が仮説とはいえ脳の未成熟度と関係あるとはいささか驚いた。そういえば車内で仲間と大声で話している大学生とランドセルを背負った下校途中の小学生の有り様も何となく似ているような気がしてきた。大人も負けてはいない。ほろ酔いかげんでくだを巻いたり、さかんに上司の批評をしているおじさん達も似たようなものだ。集団の中にいるとどうやら抑制が外れ、自己制御の押さえが利かなくなるのだろうか。だが振り返るとこうした所業は我が身の特にアルコール入りの躁状態の時にも当てはまることに気がつく。ひょっとしたら未熟化傾向が再燃しているのか、いや自分の場合はきっとそれは脳の老化現象の表われであろう。テンションがほどほどに高揚するのは仕事、遊び、日常生活には好都合だが、度を超すと知らぬうちに痛い目に逢い後で落ち込むことになってしまう。過日のエスカレーターでの出来事などは、これからどうせ無縁であろうが、外出先での飲酒はほどほどにしていた方がよいと思った。

同好会短信

ゴルフ部だより

田村皮フ科 田村 啓彦



去る4月13日、立川国際カントリー倶楽部奥多摩コースに於いて恒例のゴルフコンペがアンダーハンディキャップのストロークプレーにて開催されました。

当日は前日までの20℃を超える陽気とは打って変わって、冷たい小雨が終日降りたり止んだりの寒い1日。重たい空気にボールは飛ばずフェアウェーはぬかるみ、ランも出ず、バンカーは固く締まってザックリやホームランが頻発し、濡れたグリーンは砂が浮いてやたらと遅く、また雨対策でピンの位置は難しいといった、ただでさえ起伏が激しく多摩でも屈指の難コースにこのコンディション。実際、奥多摩コースで同時開催されていたシン

グルプレーヤーの研修会でも70台は2名だけといった具合でした。更に横綱不在で幕下優勝のチャンスに思わず肩に力が入るといった厳しい状況でした。

この熱戦を制したのは、今回初参加の丸茂会員で、多めのハンディもあって唯1人ネットアンダーでの優勝でした。準優勝はこのコンディションで最近絶好調の青山会員とベスグロを分けあった岩尾会員でした。今回は飛距離を捨て、手前から攻めに徹して朝から酒気おびにも拘らずの快挙でした。

今回は7月20日(日)。連休の初日ではありますが待望の立川国際カントリー倶楽部草花コースにて開催致します。梅雨も明けていると思いますので奮って御参加下さい。



順位	氏名	イン	アウト	グロス	ハンディ	ネット	
優勝	丸茂 祥人	48	53	101	30	71	
準優勝	岩尾 芳郎	42	43	85	13	72	ベスグロ賞、ニアピン賞
3位	山川 淳二	45	47	92	20	72	ドラコン賞、セカンドニアピン賞
4位	青山 彰	44	41	85	10	75	ドラコン賞、ベスグロ賞、ニアピン賞
5位	渥美 浩	45	46	91	12	79	ニアピン賞、セカンドニアピン賞
6位	宮川 栄次	46	48	94	14	80	
7位	田村 啓彦	45	44	89	7	82	ドラコン賞、小波賞
8位	横地喜代美	52	52	104	22	82	
9位	後藤 晋	47	51	98	15	83	
10位	中田 芳孝	52	56	108	24	84	
11位	馬詰良比古	46	49	95	10	85	
11位	坂元 龍	48	47	95	10	85	ニアピン賞、小波賞
13位	田邊 秀郎	48	49	97	10	87	
14位	松崎 潤	53	56	109	21	88	ドラコン賞
15位	河内 泰彦	48	55	103	13	90	
16位	堀越万理子	65	62	127	36	91	セカンドニアピン賞×2
17位	諸角 強英	53	49	102	10	92	
B.B	西村 律子	57	54	111	19	92	
B.M	堤 次雄	71	63	134	30	104	大波賞

理事会報告

★ Information

3月定例理事会

平成20年3月25日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・鹿児島・小林・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・渡辺（肇）・松原・足立〕

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告

2. 各部報告

総務部：西多摩地域脳卒中連携検討会（最終回3/18）

介護保険担当者連絡協議会（生活機能評価について）（3/31）

病院部：病院部学術講演会日程、講師、演題などについて

日時：20年6月13日（金）西多摩医師会館にて

講師：伊関 友伸先生

演題：「試練の時代の自治体病院経営」

産業医：日医産業医研修会の開催を予定（20年7月26日（土））

（青梅市立総合病院講堂、第1会議室、第2会議室）

学術部：西多摩医師会臨床報告会（3/18）25名参加

3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青 梅：3/25 予防接種についての説明会 三師会4/12（土）に予定

福 生：介護保険、ケアマネ対策について話し合い

羽 村：4/15 定時総会

あきる野：なし

瑞 穂：なし

日の出：なし

4. その他

【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

入会会員なし 退会会員3名（B会員）

2. 西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（敬称略） —— 承認 ——

西多摩医師会代表 鈴木道彦 中野和広

西多摩地区学校医代表 瀬戸岡 俊一郎 片平潤一

3. 羽村市立保育園園医の推薦について（敬称略）—— 承認 ——

4 会員を推薦 塩 沢 三 朗 関 谷 進 一 郎
柳 田 和 広 山 川 淳 二

【3】協議事項

1. 平成 20 年 21 度西多摩医師会各部分掌表・医道審議会表（案）について

2. 平成 19 年度第 2 回定時総会について

493 名（総数）過半数は 247 名
当日参加 38 名 委任状 229 名 計 267 名
現在のところ総会成立

3. 特定健診の状況について —— 承認 ——

横田副会長

現在のところ 8 市町村の回答は得られず、交渉過程に時間が無い時には担当理事及び
総務会一任でよいか

4. その他

4 月定例理事会

平成 20 年 4 月 8 日（火）

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・横田・鹿兒島・川間・小机・鈴木・田坂・蓼沼・中野・野本・松山・宮下・松原・足立〕

【1】報告事項

1. 平成 19 年度第 2 回定時総会報告

3 月 27 日（火）に開催され、5 議案全て可決された（田坂）

2. 各部報告

会長より：1. 今期は西多摩医師会創立 100 周年を記念する行事の準備期間と考えている
2. 会館建設問題の解決をめざす
3. 記念誌発行にむけての準備期間
以上 3 項目の達成を目標とする。

総務部：○介護保険担当者連絡協議会報告（生活機能評価）3 / 31

○総務会（特定健診）4 / 7 開催、協議事項で説明

病院部：3 / 28 市民フォーラム報告（羽村市ゆとりぎ）

「救急問題」をとりあげ盛況であった。

学術部：4 / 28 学術講演会「わが国の小児がんの現状」（阿伎留医療センター）

日大附属板橋病院小児科教授 麦島 秀雄先生

5 / 21 学術講演会（青梅市立総合病院）

3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青 梅：行政との懇話会

福 生：なし

羽 村：定時総会

あきる野：なし

瑞 穂：なし

日の出：なし

4. その他報告

○唐澤祥人日本医師会会長当選

有効投票数 351 票（唐澤氏 304 票、下間氏 27 票、白票 20 票）

【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

B 会員 4 名：日の出ヶ丘病院 3 名 高木病院 1 名

2. 平成 20 年度日の出福祉園産業医の継続推薦について —— 承認 ——

宮川栄次会員を推薦

3. 東京労働保険医療協会評議員の推薦について —— 承認 ——

真鍋 勉会長を推薦

【3】協議事項

1. 理事会の運営の仕方について

2. 特定健診開始を踏まえ、契約について（総務会決定）

1) 契約内容及び時期に関して

8 市町村の地区による、統一契約はない。

2) データの電子化に関して

医師会は紙ベースで提出、行政がデータ化するように要望する。（但し本年度のみ）

3) 実施会員機関への周知・説明会などについて

基本部分のみ統一、選択、追加項目は不統一の為各地区で個別に医師会員に周知してもらおう。将来のデータ化については各医療機関で対応できるよう講習会等を開きたい。

3. 平成 20・21 年度本会各部分掌表・医道審議会一覧表について —— 承認 ——

公衆衛生委員会委員は未定。会報に掲載（P 2 参照）。

4. 平成 19 年度各部事業報告（案）の承認について

次回に承認のはこび。

5. 平成 19 年度西多摩地域脳卒中医療連携事業実施報告について —— 承認 ——

表紙のことば



『梅岩寺の枝垂桜』

1ヶ月遅れの今年の青梅、梅岩寺の枝垂桜です。梅岩寺には枝垂桜の大木が2本ありますが、写真の桜は奥の斜

面に植わっているものです。斜面にあるため枝が長く垂れ下がり毎年見事な花を付け楽しませてくれます。地球温暖化の影響か、今年は例年よりも早く開花しました。危うく時期を逸するところでした。

森本 晋

お知らせ

事務局より お知らせ

平成20年6月（5月診療分）の

保険請求書類提出

6月9日（月）

— 正午迄です —

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談ください。

- | | |
|---------------------------|--|
| ◎相談日 | 5月は14日（水）
6月は11日（水）の予定です。 |
| ◎場 所 | 西多摩医師会館和室 |
| ◎内 容 | 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。 |
| ◎相談料 | 無料（但し相談を超える場合は別途） |
| ◎申込方法 | 事前に医師会事務局迄お申込み願います。 |
| （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。 | |

社団法人 西多摩医師会

平成20年5月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL.0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 鹿兒島武志

宮下吉弘 近藤之暢 江本 浩 鈴木寿和 馬場眞澄
菊池 孝 桑子行正 會沢義之 土田大介 田村啓彦

印刷所 マスダ印刷 TEL.0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659

“健康”のために、 できること!...



alfresa

アルフレッサ株式会社

本社 〒101-8512 東京都千代田区神田錦町一丁目21番1 TEL.03(3292)3331(代表)